



十一月(小)霜月 亢宿

十一月七日立冬の節より
月命己亥二黒土星の月
暗剣殺西南方

日 十一月小
十一月大

●朔二朔月のことで、新月を指す

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	月出入	月出入	満潮	干潮
1日	火	ひのと	る一白	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、旧亥の子餅、知開き 旧十月小	二	大安	のぞく	尾	大みやう	6.03	16.46	7.03	17.56
2日	水	つちのえ	ね九紫	唐津くんち	三	赤口	みつ	箕	ぶく日	6.04	16.45	7.56	18.35
3日	木	つちのとうし	ハ白	文化の日、明治神宮例祭、東京足立血溜不動万灯祭、不成就日	四	先勝	たいら	斗	十し	6.05	16.44	8.48	19.17
4日	金	かのと	七赤	消費者センター開設記念日	五	友引	さだん	牛	●	6.06	16.43	9.39	20.03
5日	土	かのと	六白	京都松尾大社上卯大祭	六	先負	とる	女	く亥日	6.07	16.42	10.27	20.53
6日	日	みづのえ	五黄	立冬八時四八分、天一天上	七	佛滅	やぶる	虚	大みやう	6.08	16.41	11.13	21.47
7日	月	みづのとみ	四緑	上弦四時五十分、世界都市計画の日、京都伏見稲荷火焚祭、ふいご祭	八	大安	やぶる	危	ぢう日	6.09	16.40	12.38	22.44
8日	火	きのお	三碧	鳥根出雲大社神迎祭、とおかんや、一九九番の日、太陽暦採用記念日	九	赤口	あやぶ	室	神よし	6.10	16.39	13.17	23.44
9日	水	きのお	二黒	世界平和記念日、一の酉、一粒万倍日、不成就日	十	先勝	なる	壁	大みやう	6.11	16.39	14.17	24.44
10日	木	ひのえ	一白	一粒万倍日	十一	友引	おさん	奎	●	6.12	16.38	15.17	25.44
11日	金	ひのと	九紫	一粒万倍日、不成就日	十二	先負	ひらく	婁	十し	6.13	16.37	16.39	26.44
12日	土	つちのえ	ハ白	京都空也堂開山忌、京都嵐山紅葉祭、三隣亡	十三	佛滅	とづ	胃	く亥日	6.14	16.36	17.39	27.44
13日	日	つちのと	七赤	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式	十四	大安	たつ	昂	く亥日	6.15	16.36	18.39	28.44
14日	月	かのと	六白	旧えびす講、旧誓文払い、一茶忌、不成就日	十五	赤口	のぞく	畢	く亥日	6.16	16.35	19.39	29.44

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したこと、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りのないようにチェックしよう。

【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝(袴着け)、男、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	月出入	月出入	満潮	干潮
15日	火	かのと	五黄	七五三、本州・四国・九州一般鳥獸狩猟解禁	十六	先勝	みつ	觜	五む日	6.17	16.34	20.39	31.44
16日	水	みづのえ	四緑	一粒万倍日	十七	友引	たいら	参	大みやう	6.18	16.34	21.39	32.44
17日	木	みづのと	三碧	一粒万倍日	十八	先負	さだん	井	天火	6.19	16.33	22.39	33.44
18日	金	きのお	二黒	一粒万倍日	十九	佛滅	とる	鬼	大みやう	6.20	16.32	23.39	34.44
19日	土	きのお	一白	一粒万倍日	廿	大安	やぶる	柳	大みやう	6.21	16.32	24.39	35.44
20日	日	ひのえ	九紫	一粒万倍日	廿一	赤口	あやぶ	星	神よし	6.22	16.31	25.39	36.44
21日	月	ひのと	ハ白	一粒万倍日	廿二	先勝	なる	張	●	6.23	16.31	26.39	37.44
22日	火	つちのえ	七赤	一粒万倍日	廿三	友引	おさん	翼	●	6.24	16.31	27.39	38.44
23日	水	つちのと	六白	一粒万倍日	廿四	先負	ひらく	軫	十し	6.25	16.30	28.39	39.44
24日	木	かのお	五黄	一粒万倍日	廿五	佛滅	とづ	角	大みやう	6.26	16.30	29.39	40.44
25日	金	かのと	四緑	一粒万倍日	廿六	大安	たつ	亢	大みやう	6.27	16.29	30.39	41.44
26日	土	みづのえ	三碧	一粒万倍日	廿七	赤口	のぞく	氏	く亥日	6.28	16.29	31.39	42.44
27日	日	みづのとうし	二黒	一粒万倍日	廿八	先勝	みつ	房	く亥日	6.29	16.29	32.39	43.44
28日	月	きのお	一白	一粒万倍日	廿九	友引	たいら	心	月とく	6.30	16.28	33.39	44.44
29日	火	きのお	九紫	一粒万倍日	朔	大安	さだん	尾	神よし	6.31	16.28	34.39	45.44
30日	水	ひのえ	ハ白	一粒万倍日	二	赤口	とる	箕	大みやう	6.31	16.28	35.39	46.44

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といい、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による酒の市(お西さん)とも「西の市」ともいって、鷺(おとり) 明神の祭祀が行われる。開運の神として大の西(一の西、三の西)と盛大であるが、三の西まである年は、活気がありすぎて火事が多いといふ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしは旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。

●上弦二上弦の月を指す

※現行太陽暦は天保暦明治五年十一月九日に採用され、同年十二月三日から実施された。